

昭和17年3月1日（日）

曇り。報告物の為に伊勢さん臨局。坊やの乳呑みは熟慮の結果、経済問題を超越し、保健上の見地より一日2回朝夕とすることにし、外に牛乳2合をとることにせり。野口氏に5円給与払ひとなる。事務服を2円にて分譲し貰ひ、之を岩尾員に交付す。市内商店、殆ど閉鎖休業。野口氏父君、今夜塩川出発。2日朝上京一泊。3日朝、10時の急行にて東京駅発。4日、9時16分到着の予定とあり。ミワさん野口氏多年の労に酬（むく）ゆる為、纏まった全員の品物を贈りたき由、申し出でたるも、欠損補填率高く、其の必要なしと反対し置けり。夕方より降雨。大降りにならず。襦袢は大方乾きたり。坊や漸く、血色健康相となる。

昭和17年3月2日（月）

朝来降雨。此の朝久子より電話。此日、福岡行き中止。此の旨福岡に電報せよとのことにて、ミワさんに発送して貰ふ。降雨の為、駅まで赤坊に智子と三名連行、容易ならずと云ふに在り。降り方、春雨らしく容易に歇み相に在らずと思はる。今日は切手請求なし。ストーブを廃す。寒気も余程衰え、道（さすが）に春らしき俤す。

昭和17年3月3日（火）

曇り。風寒くも次第に晴れかけたり。澄子、午後零時40分頃来宅。秀坊を抱き居る。発車時刻迫るも巖不来。兎に角、余は智子を負ふて駆け付く。巖漸く来る。切符を購ひ、荷札を求め宛名を記載す。時刻は次第に経過し、発車時刻五六分遅れて、猶荷札出来ず。気の揉めること夥し。余入場券求めホームに入る。汽車は10分遅れ到

着。荷物を附託し得たるも、其の汽車には搭載不可能なりし。汽車は生憎、満員立ち往生の姿なり。久子漸く来たり、乗るや間もなく発車す。巖自転車に荷物を積みたるも、途中転落し再び乗らず。不得止、小母車を持来たり、其れに積み重ねたる為、遅れたる由。併し10分汽車が遅れたるは、天興の賜なりし。当方よりミワさんの丹精になる生肉、及び蒲鉾を土産に遣る。夕食後、余は坊を守りして寝る。坊容易に睡らず。余の敷布団に小便する等、当惑せり。如何なる理由か、余の計算に於いて10円の欠損を生ぜしむ。天気、漸次快晴に向かふ如し。

昭和17年3月4日（水）

快晴。東の空、白みかける迄二度眠り。午前9時16分、野口留蔵氏見ゆ。ミワさん停車場に迎ふ。朝食、野口氏来たりて食す。米俵の米を移し手間取りし為とす。留蔵氏より餅貰ふ。箱入りにし予て駅に出してありし如く、既に昨日到着しあり。10時まで留蔵氏と咄し、中津局に切手代金を持行く。昨夜森田さんの弟さん来たり。泊まり、3時の汽車にて帰らる。17才にて本年5年級なりと云ふ。大分高商志望の由。此度も大分行きの帰途と云ふ。合同運送にて貯債四百円、報国四百円、20円シンガポール陥落記念国債30枚求め呉る。今日、現物引換え現金交付さる。夜、坊湯に行く。頃日、坊や夜10時過ぎまで睡らず。多少暖かになり、薄着するやうになりたる結果、起上がらんと努むる形となり、起上がれば下向き、畳を舐（ねぶ）る等、放任し置く能はず。当惑すること多し。野口留蔵氏にピスケ貰ひてより、噛んで与ふること3つ位。之を喜ぶも、与ふることにより下痢の兆しあり。曩に腸を害したるも、畢竟ビスケットの消化不良と認む。

昭和17年3月5日（木）

朝来降雨。此朝7時の下り汽車にて、野口氏別府行きの予定を中止さる。切手代納付の為、中津局行き。前後は雨歇み居る。帰途次第に大降りとなる。和傘持参せず。多少濡れたり。午後は傘持行きたるも降らざりし。夕食味飯。野口氏親子を饗応す。森田さんにも遣る。午後より多少降りしも、割合に小降りなりし。

昭和17年3月6日（金）

坊や昨身体冷えしものの如く、襦袢汚すこと頻繁。遂に風邪の気味、発熱38度に垂（なんな）んとす。横田にて計りし際は37, 8。不取敢、相談所に遣る。松原先生研究の為上京。被命代理として、先般見えし先生に縁ありて見て頂く。熱発37度。処方箋を下さる。3日分会営業店より調剤して貰ふ。80銭余かかる。野口氏、午前9時過ぎ耶馬溪羅漢寺に至り、1時頃帰着。夜7時近く、巖宅に行き供養す。野口氏行き違いに見え、余先に帰来。坊熱発38度、心配す。夜半は身体火の如く熱せり。明朝、清松博士に診て貰ふと謂はる。

昭和17年3月7日（土）

曇り。次第に雲切れ、碧空を処々に望む。昨夜、余巖方に行きたる留守に政恵さん来たり。乳を遣るも坊吸わず。此の朝、野口氏親子、宇佐に詣り別府行き。夜6時過ぎ帰らる。入浴する暇あらざりしと。地獄廻りを遣りたる由。坊や殆ど平熱に復す。横田の豊国さん臨局。坊の病気を心配して来られしもの。事務室にて、巖より聞きし秀坊の措置に付いての意見に、同意の旨話す。午後2時頃まで、

1時間話して帰る。

昭和17年3月8日（日）

快晴。坊の発熱全く鎮静。野口氏等、市内買い物。早くより耶馬溪の小野さん来る。耶馬溪見物は小野さんの案内に依る。隔日勤務にて、此日宿明けらし。今回の野口さんとの袂別（べいべつ）に、森田さんより6円余のハンドバック、伊勢さん前田さん岩尾さん等よりも、夫れ々々応分の贐（はなむけ）ありたり。午後5時よりうどんにて、野口氏の外、森田さん小野さんにも饗す。外に飯も炊く。かくて午後6時出発。前田さん小野さん送る。伊勢さん自宅に長男の祝言あり、不来。此日、大東亜詔書発布の旗日。天気は日本晴れ。野口さん嬉々として父親に連れられ出発。坊やもミワさんに負はれて見送りす。此日、襦袢カバー120新しく求む。現金関係過去1年分の調査に没頭し、連日の疲労に伴ひ睡魔頻りに至り、新聞も満足に見ず10時半休む。坊や寝らず、百方するも泣き或いは叫ぶ。11時を過ぐ。電気を暗くして、大いに猛り叫ぶ裡に眠る。猶、野口さん下関駅普通列車京都行きにて、明朝6時金光に詣り、京都より伊勢を経て再び京都に引返し、東京に泊。駅に出勤の同氏長男の上京にて、三人一緒に故郷入りの予定なる由。

昭和17年3月9日（月）

曇り、午後より少雨。伊勢さん休職申し出。切手代前日二円欠損より気を腐らし、此日の払込みはミワさんに行って貰ふ。午後零時30分、余受取りに行く。此夜、餅焼き雑煮頂く。坊や相談所行き。島原先生研究の為上京。代務者、例の豊田町に居られる婦人科専攻の先生にて信用

ある人。坊、昨夜遅くまで睡らず。当惑せしが、此日はミワさん寝せ附けたるも、十時を過ぎ依然眠らず。十時半より、余代わって寝せ附けたるも、矢張り睡らず。十一時を過ぎ、下向き伏せの儘睡る。十二時頃までミワさん切手調査。

昭和17年3月10日（火）

朝、降雨。道路掃除中止。切手請求ミワさん、受領方は余自身行く。午後より天候恢復の兆しあり。久子此の日飯津の筈なるが、遂に不来。朝降雨の為、延期せしものと噂し居れり。道子へ葉書発送す。坊十一時半頃まで起き居る。

昭和17年3月11日（水）

朝、切手請求代金、余持行く。葉書四千受取りはミワさん、保険部に尋ねに行く序でに持販らる。久子午後零時30分の汽車にて販来。鯨の缶詰持来る。明日が淳坊の百日。写真撮影に坊を連れ来ると云ふ。秀坊夜寝ず大声に泣く為、夜寝られずと皆こぼす。智子意地悪にて皆から可愛いがられぬ。中津の巖を嫌がると云ふ。不審に堪えぬ。午後七時より常会。ミワさん行かる。「久子は午飯を馳走になりて、一時近く北浦町に販る。其の時、余の切手類を担ふて販る途中、狭き細小路にて逢ふ。早口に餅は食べたか、納豆は如何、巖に用があるから序でに局に来て呉れるやう咄す。久子曰く。巖ちゃん本月三十円、来月から二十円、養育料として送金する旨、自分に話せる由。夫れ聞きては態々来て貰ふ必要なし。用件は福岡への送金問題を措いて、他になしと別れたり。」

昭和17年3月12日（木）

曇り。午後より幾分晴れ模様の処、夫れも一二時間にして再び曇る。久子10時頃より来たり。ミワさん写真撮りに行かる。（11日分括弧「」部分、此の日に属せしを誤って前日に記入せり。）此の日葉書二千枚を四千枚請求の結果、当分請求の要なきに至る。此の日の久子の咄しに、二郎は静江の病気が癒り次第、20日頃当地に来ると云ふ。午後7時より、第2次戦捷（せんしょう）祝賀日。其の筋より、酒2合宛て到着。常会連、一戸2円米3合砂糖茶碗1を要求。祝賀会を撞球屋二階に開き、余まで参加を慫慂し来る。ミワさんのみ行かる。各戸は子供等まで夕飯を食べに行く有様。夜、詩吟や俗歌で大変な騒ぎ。余、坊を寝せつけるに骨を折る。此の夜より、坊をタオルで身体を摩擦初む。

昭和17年3月13日（金）

曇り。切手請求見合わす。朝多少降雨、7時頃は歇む。5時坊を起こして神詣で。7時半乳貰ひに行かる。余の掃除、これから本格的に母堂の部屋が一着的、次いで食堂、次いで余の部屋より坊の寢床を母堂の部屋に移し、湯煖房を入れ換ふ。襦袢を洗濯竿にかけ、乾かす。余の部屋を掃除し、神櫛を水を取り換ふ。是れ丈け済ませば、余の身体になる。坊早く睡る。今日5時乳貰ひより飯れば、間もなく湯に連れ行かる。割合早く眠る。

昭和17年3月14日（土）

朝来降雨。此日午後3時より貴船神社の神輿担ぎとして、一戸一名、人を傭ひても出動せざるべからざることに通達。尤も本年は日の出町の当番なる由。白木綿の襯衣

股引きと云ふ装束なるも、時節柄団服差支えなしとあり。雨の為、3時が2時に繰上げられたとの回状もありて、愈々上村氏の店舗に集合。細雨降りしきる。少時して一同数人と連立つ。草履神様に沢山ありて、皆草履に履き換へさせらる。余は長靴を自宅に戻り措きて、草履と換え再び俟つ。臈（やが）て神酒を頂き、4時頃より漸く出発す。出発に先立ち神官より挨拶あり。雨は歇みたり。巡幸の町名は本町より以南、豊田町方面。6時前終了。余は最後を見届けず帰る。痕、復すれば冷氣身に迫る。神輿を担げば肩痛し。横田母堂、政恵さん来宅。書留でも頼みばかりしなるべし。巖方愛子の命日。ミワさん菓子を持ちて拝みに行き、久子より夏蜜柑数个貰ひ帰らる。

昭和17年3月15日（日）

曇り。朝飯時、巖来る。30円送る手紙を余に示す。赤坊貰手附く。昨道子の手紙には、就職は断りたる由。坊や鼻水出し、くさめ頻繁にす。夕飯に油揚げを入れ、五目を拵へらる。森田さんにも遣る。報告物調製に追われ、終日働く。

昭和17年3月16日（月）

曇り。東吉富池内まで行き、麴を買って貰ふ。白米1升到麴1升の割合、外に金5銭を徴さる。2升求め来らる。夕方近く、2升炊き釜に1升5合炊き、購入の麴全部を入れ、摂氏60度の温度を保つ程度にし、夜は炬燵に入れ置きたるが、大体三四時間にして甘味を帯ぶるに至れり。巖昨日の手紙に対する30円を、為替組み速達発送す。然るに本朝、巖より余に宛てたる書面を措き、暇の時見て呉れと云ふ。掃除で多忙の為、少時過ぎて見る。秀坊を

他人に渡したくない処から、自分の心を他人は一向考えて呉れぬと云ふて、怨むらしい口吻にて、母堂やミワさんの態度をあげつらう。詢（まこと）に浅薄（せんぱく）、問題にならず。それを盗み見したミワさんが、何とか弁解めいた態度に出づるも、子供じみて気の毒なり。兎に角、巖が余に宛てたる手紙も同封してやりたり。為替料、15銭ミワさん出して下さる。而して此の手紙には、余の意見も挿入し居らざりし。甘酒は此日造りし。昨日の分に入れ置きたるは誤り。

昭和17年3月17日（火）

此の朝、葉書にてミワさんより久子へ。6時珍しき物出来た、子供達引連れ？来るよう書き投函。5時、和博悦子と共に久子来る。甘酒を遣り飯を馳走す。此の日ミワさん局長代理として列席の為、耶馬溪線にて行かる。耶馬溪線駅にて下車。午後4時半無事飯らる。此の前後、降雨あり。後次第に歇む。一つ松局代理、再度征途に就くと。切手請求。

昭和17年3月18日（水）

快晴。珍しき好天気、然れども寒し。巖来たり。道子よりの手紙を示して、余の意見を聞く。道子よりは余にも手紙あり。多分、巖宛ての文意も同意味と認め通読せざりし。猶この機会に、巖の気持ちが大分偏奇しある旨を告げ、真っ向より通告す。道子は余の意見に同意しおるも、是れとて検討せば、巖と同じく浅見短慮かも知れず。昨日分記入洩れ（久子5時頃、和博悦子連れ来局。夏蜜柑数個持来る。甘酒皆に遣る。二杯目は子供等残す。味飯炊かる。納豆を子供等大好物らしく、残り物ながら

子供等に遣る。7時頃販る)。巖は昨日子供等まで馳走になり、剩さえ巖への土産に、2合瓶一本遣る。此の禮をかねて来たりたるなり。坊や咳出て苦し相なり。熱は37度2分あり。復た相談所に行くか、常連となる惧れもあり躊躇す。

昭和17年3月19日（木）

快晴。坊の咳、余程遠ざかる。森田さん此日、午後3時の汽車にて幸袋に販るに付き、ミワさん蒲鉾求めらる。朝、南蒲鉾屋に廻り特配を受け販らる。其の為に一時間販宅遅延。余、横田に尋ねに行く。8時30分販途に就ける由、政恵さん謂はる。販れば既に還って居らる。約束の蒲鉾を求め帰らる。三本、森田さんに土産す。坊や熱多少あるも、咳止みたれば相談所行き見合わす。常連の如く見え、遠慮せしなり。尤も坊や頗る元気なり。午後3時、森田さん出発。

昭和17年3月20日（金）

快晴、午後4時頃より稍曇る。伊勢さん独りで働く。午後6時半、巖の家に行く。三十五日に相当す。久子午後、一寸来る。サーカス見に和博等に強請され、明日行くとのこと。多分晴着を持行きしなるべし。余の巖方に行く際、例に依りミワさん菓子一袋準備されあり。之を仏前に供し回向す。巖、秀坊を遣ることに決せる由を咄す。

昭和17年3月21日（土）

快晴。夕方より降雨、間もなく歇む。坊や此日よりはい出し、襦袢さするに以前のようにじっとして居らず。何れも当惑す。春季皇霊祭。団子作る。甘酒、此日にて没有。

団子は余調製す。一升を団子にして、二回に食す。乃ち此の夕と明朝と。横田氏息、講習所卒業に付き母氏参列。一緒に昨夜十一時頃の終列にて還り、十時頃政恵さんと来る。四日市に配属されたる由。最初門司に配属さるる筈らしく、親戚の有無を尋ねられたる由。給料の割合に物価高き為、親戚に寄遇せしむる方針らし。横田氏、身寄りなしと答へし為、他の該当者を振り宛てたる由。坊やを負ふて、サーカスの動物を見に行かる。

昭和17年3月22日（日）

昨の快晴に反し、朝来曇り。此の朝にて団子没有。髪、蓬々の態。裏の理髪屋に至り、髪摘む35。報告物作成の為、多忙を極む。森田さん3時過ぎ帰る。6才の坊やを連れ来らる。夜坊を寝かす為早く休み、次いで11時近くまで仕事す。昨今暖かさ、頓に加はる。猶、炬燵を持続ける。襦袢乾かす便宜と、坊やの襦袢換え上、保温の関係とにあり。

昭和17年3月23日（月）

伊勢さん8時に来る。森田さんより貰ふた餅、焼きて頂く。切手請求に、窓口一杯の混雑に裏に廻り、事務室内にて西田さんに渡す。電話員の試験と見え、七八名の女の履物、脱ぎ棄てあり。朝の間曇り、次第に晴天となる。夜半降雨せしものの如く、道路濡れて掃除出来難かりし。野口さんより手紙。何か小荷物で贈りし由。而して其の荷物が午後到着。恰度、坊の発熱を計量されつつありし。7度2分。更に相談所に駆込む。1時間余り待合い。薬3日分、繹局（やっきょく）より購入し来らる。午睡の際、坊や流汗。之を湯にて身体を拭いてやる。野口さんより

の贈物、潰し豆、菜の乾した物、九重一袋。此日午後1時、横田の小母さん来たり。配属先は気に喰わぬ、何とかならぬものかとあり。今更どうとも致し難し。一旦任地へ赴任することは、絶対必要なりと注意しやる。阿爺（あや）の不同意に居耐へず、来られたるなり。無線にやるなどと謂はる。

昭和17年3月24日（火）

朝降雨の為、表掃除せず。9時頃より天気恢復の兆しあり。切手請求代金払込みは高下駄。午後よりは道路乾く。横田氏、四日市局に赴任。久子来たり。森田氏より頂きし餅を焼きて馳走さる。萬年ペン修繕。木判臼杵に頼む。熊本に注文せし主務者印、職印等調製到達せり。珍しく積立貯金を成立し来らる。野口氏より送付越しの九重、皆に馳走す。キャラメルも貰ふ。坊やの間食に与ふ。今日より行火を廃す。仮に火を入れるも、消えるようになりたればなり。坊やの方の炬燵は、襦袢暖める為、湯煖房は廃したるも、尚存置せしめたり。淳坊の写真は明日出来ると。甘藷のテンプラ、久子より土産に貰ふ。

昭和17年3月25日（水）

晴れ。此日、坊の乳の販りに写真屋に立寄り、出来上がりし写真4枚持来らる。午後巖来たり。久子より頼まれたと称して、写真持去る。久子食傷らし（26日分に当たる）。此日切手請求なし。8時を過ぎ睡魔頻りに至り、早く引上ぐ。坊や容易に眠らず。10時を過ぎて、燈火を消滅して漸く眠る。神経過敏の為にも因るものと思料す。横田爺身分証明書のことにて行違いあり。母堂夜に入りて来られ、当局のものを作成して差上ぐ。坊やの熱発は、依然37

度を超す。元気に変わりなし。

昭和17年3月26日（木）

曇り。右上頭部痛、甚だし。扁桃腺膨れたらし。切手請求。巖来たり写真持ち行く。久子食傷とあり。来月20日、福岡行きの由。和博と悦子と2時頃来たり。蜜柑持来る。菓子遣る。少時遊びて飯る。森田さんの坊ちゃんと2階に行き遊ぶ。給料交付分配せり。4月1日より郵便、電信話料金、改正公報配達あり。訂正に多忙を極む。

昭和17年3月27日（金）

快晴、風寒し。頭痛減退せず。中津局行き。切手資金払込み、午後受取りに行く。梅花全く散り、桃花漸く咲き初む。坊の熱発、不相変、7度を上下す。去年の昨今、余断食し居れりと謂はる。そう謂はれて見れば成る程と首肯さる。爾来一年、生活は大分変化を見つつあり。知らず、来年の今月今日は如何なる生活振りを呈しつつあるか。

昭和17年3月28日（土）

曇り。一昨年三谷より送付の大豆、一度打ち豆にした儘放置しありしを、此頃数回に茹でて頂き居れり。白飴50銭分、伊勢さんに頼み購入のもの、坊に時々遣り居れり。昨、林檎百匁40銭と云ふを、二百匁求めらる。一ヶ15銭の割。今日4時過ぎ、坊に磨り汁を与ふ。頭痛するも仕事を継続し居れり。6時伊勢さん、電信掛員との間に衝突あり。泣いて2階に上がり、森田さん電報送る。夜に至り頭痛衰ふ。坊、不相変不眠。ミワさん持ち剩さる。

昭和17年3月29日（日）

午前3時頃より降雨。便所雑巾、折角乾きたるを其の儘
扉に掛り居る為、再び雨に晒されあるを認め、折柄便所
行きの際、取込み置きたり。6時前後、一層降り募る。
木炭没有、二俵購入。午後巖来たり。米無くなり、うどん
及び団子を代用したる由にて、借りに来る。ミワさん5
升程遣る。此の時の話に、ラジオ聴取不良の為、廃止者
続出の姿なり云々。伊勢さん電報整理の為来局。此日晴
天なれば、宇の島海岸に貝あさりに行く筈なりしと。佐
世保より手紙。浦田氏の代理を解除しては如何と、余の
意見を徴し来る。此の朝、横田母堂、坊の歩行器とキー
ピー人形とを下さる。早速之を利用。飯時には必ず抱き
つつ食事を摂りたるも、坊を歩行器に乗せ置けば遊び居
ることになる。但し、寒さが残り居る昨今、長く立たせ置
くも如何と案じらる。

昭和17年3月30日（月）

髯蓬々。切手請求に行く前、髯剃る。まこと誌木下主事
に贈る。局長食堂には、猶主事連居残り、机上には夏蜜
柑の皮があり。余は余程躊躇せしも、思ひ切りて入りぬ。
前日伊勢さんより訴えたる電信掛りの態度に付き、多少
事実を陳情し、さてお互いに意思の疎通を欠くようでは
仕事の能率にも影響し、甚だ遺憾に思はるるので、善後
策として菓子 of 二三円を求め、茶話会又は懇談会を開く
こととせん腹案なる旨話せしに、共鳴せられたるを以て、
ミワさんに頼みて、適當の菓子を買溜めすることとせり。
此の朝より手紙を窓口に持来。又例の理窟を駢（なら）
べてあるものと認め、少時仕事の手を曠（むな）しくす
るに忍びず放置したるも、幾分気がかり故、披見したる

に、小母車代として50円、外に道子等に赤坊養育費20円を封入しあり。猶此の分は、久子上福の際届けしむる様、配意を得度き旨も添言しあり。坊や診て貰ふ為、10時頃相談所へ。朝寝して居らぬ為、頗る睡むがり間もなく眠る。気管支炎が発熱の動機を為せりと。7度を超す。

昭和17年3月31日（火）

印紙2銭、5銭、10銭等、函場買受け多く、公衆よりの要求、亦夥（おびただ）し。曇り、風寒し。午後より、幾分暖かめとなる。此日の請求は、巖よりの70円とミワさんより20円。都合90円を追加し、請求書作成す。